

小論文（法学類） 正解・解答例

問題の出題趣旨・講評・解答例（2020年3月12日9時30分から12時30分実施）

●問題 次ページ以下の文章をよく読んで、次の問いに答えなさい。

佐々木毅『民主主義という不思議な仕組み』（ちくまプリマー新書, 2007）89 ページから106 ページまでを小見出しとルビの一部を省略の上, 引用

問1 著者は, 各種の「世論調査」に現れる「世論」について問題があると考えているが, それはどのような理由によるのか, 150字以内で説明しなさい。

問2 下線部①のような事態が生じる上で, 「ステレオタイプ」がどのような役割を果たしているか, 本文を参考に300字以内で説明しなさい。

問3 下線部②はどういうことを意味し, それがどのような原因により, また, どのような影響を及ぼすか, 300字以内で説明しなさい。

問4 下線部③のような見方にどのような問題があるか簡潔にまとめた上で, それにどう対処すべきかあなたの考えを600字以内で述べなさい。

出題趣旨等

[問1]

出題趣旨

課題文を正確に読解したうえで, 著者の考えについての確かつ簡潔な文章で表現できる能力を問うものである。

講評

課題文の中から「世論調査」に現れる「世論」について筆者の考えが書かれた箇所を見つけ出し, 所定の字数内で的確に要約することが求められている。多くの答案において, 筆者が指摘する世論調査の対象の限定性や調査方法の問題について言及されていたものの, そうした制約のある世論調査による世論が「世論」そのものとして実体視され, 政治を左右しうる点について述べる答案は少なかった。

### 解答例

世論調査で実際に意見を聴かれる人はごく少数で、ほとんどの人は一生意見を聴かれることがない。また調査が行われる時期、設問の内容や言葉遣い、順番などに、調査する側の主観が入り込みやすい。そうした調査の結果が、「世論」そのものとして実体視され、政治が左右されることが多い。そこに「世論の支配」の問題がある。

(150字)

### [問2]

#### 出題趣旨

課題文を正確に読解したうえで、問いに対する解答を的確な字数で表現できる能力を問うものである。

#### 講評

課題文の中で述べられているステレオタイプの特徴（もしくはステレオタイプが導く人間の振る舞い）について述べるとともに、それが下線部①とどう関係するかを言及する必要がある。しかし一定数の答案は、前者についてのみ説明し、後者の説明を欠いていた。また、そもそも課題文の文意を誤読した答案や、「偏見」を「編見」と書くなどの基本的な漢字の誤りもあった。

### 解答例

人間は、事実をありのままに見るのではなく、ステレオタイプを通して見ること  
で、知るためのエネルギーを節約し、見慣れるものだけを見ることによる安心感を得る。ステレオタイプによって見たい対象の選択肢が予め決められているため、人々が複雑な現実を公平かつ冷静に観察するとは期待できない。世論調査を行うマスコミは、ステレオタイプを取り除こうとせず、むしろ強化する。人びとは真実を知るためではなく、楽しみのためにメディアに接する。政治指導者はそれを利用し、親しみやすい人物として自分を演出したうえで、自分の方針に都合のよい「イエス、ノー」の

選択肢しかないよう見せかける。そういう操作によって「世論」は製造される。

(299字)

### [問3]

#### 出題趣旨

課題文を正確に読解したうえで、指定箇所について問われた諸事項につき、所定の文字数で的確に論述しうる能力を問うものである。

#### 講評

多くの答案が本問に及第する解答をなしえていた。なお、指定箇所について問われた諸事項のうち、それがどのような原因によるかについての論及を欠くものが散見された。

#### 解答例

大衆が世論を通して、自らの代表である政治家たちをコントロールする、本来の民主主義に近い状態から、少数の政治家が、エリートとして「世論」を操作することで大衆を思い通りに支配する状態への逆転を意味する。そうなった原因として、人間がもともとステレオタイプで物事を見る存在であることに加え、二〇世紀以降の社会構造の変動で多くの人々が根無し草になったことや、恐慌やインフレによる生活基盤の破壊、マスコミュニケーションの発達に伴って人々のメディアへの依存度が高まったことが挙げられる。エリートは内心は大衆を侮蔑しながらも、メディアを活用した宣伝で大衆の感情に働きかけて支持を得、民主主義的外観の下に独裁政治を行う。

(300字)

### [問4]

#### 出題趣旨

課題文を読解し、著者の見解を正確に理解したうえで、自己の見解を論理的かつ

所定字数内で表現できるかを問う

#### 講評

「世論の支配」を強調する立場と、大衆の愚かさを強調する悲観主義の双方に関する著者の見解を正確に理解しているかが最初の評価のカギになる。著者はあくまで、双方の極端な見方が現実の政治に及ぼす影響を論じているのであって、政治のあるべき姿についての二つの見方を示しているのではないが、その区別がついていない答案が多かった。その混乱のため、自分の見解を述べる段になって、楽観主義と悲観主義の中庸を取るべきであるというような漠然とした一般論になっている答案が少なからずあった。そういう混乱があっても、ある程度具体的な制度の構想に繋がるような内容があれば、評価したが、そういう内容がなく、漠然とした感想に留まっているものもあった。自分の見解を述べるという場合、一つの観点からの一貫性があることが大前提であり、思いつくことをそのまま適当に並べただけの答案には低い評価しか与えていない。また、「みんなが政治に関する知識を身に付けるよう努力すべきだ。そうすれば、問題を回避できる」というように、漠然と精神的態度を述べて、それで問題が解決できると断言するパターンの答案も散見されたが、これも低い評価しか与えていない。著者は確かに有権者の基本的態度を問題にしているが、その態度を変えていくにはどういう制度が有効かを論じていないと、高評価を与えていない。態度を変えねばならないという指摘に対して、「みんながそういう態度を改めるべき」と述べるのは、同語反復であり、答えになっていない。

#### 解答例

「世論の支配」を強調する立場は、有権者が政策面を含め、非常に合理的な判断力を備えているという前提に立つ。しかし現実には、有権者である大衆は、ステレオタイプに囚われ、自分の見たいものしか見ないので、「世論の支配」こそ民主主義だと考えていると、大衆の特性をよく知り、宣伝に長けた権力政治家に利用され、大衆の支持を得た独裁政治を正当化することになりかねない。かといって、大衆の愚かさだけ強調する悲観主義だと、かえって判断能力の高い独裁者に対する待望を高めるこ

とになりかねない。その両極端を避けるには、政治家が掲げる政策の具体的中身を有権者に伝えるメディアが重要になる。近年のマスコミは、ニュースのバラエティー化と言われるように、面白いキャラクターで話題性のある政治家だけを取り上げ、その人たちの喧嘩のようなことばかり報道し、政党ごとの政策の細かな違いを伝え、予想される効果を学識のある専門家の意見を踏まえて分析することに時間をかけない。短い印象的な言葉で多くの人々の注目を集められるツイッターなどのSNSの発達がそれに拍車をかけている。そうした状況を打破するには、政治報道に携わるメディアが、面白いネタを追うだけでなく、一定の時間を政策の吟味に当てるよう義務付ける、基本的倫理指針を確立し、それを独立の機関がチェックする仕組みが必要だ。学校教育にも、メディアの政治情報に適切に接するための学習を導入すべきだ。 (599字)